

ここがすごいよ！高岡城

① 保存率日本一の水堀・郭（城内の広場）

高岡城は1609(慶長14)年の築城時から水堀と郭の形がほぼ変わっていない。日本の築城の数・レベルがピークである慶長後期の「基準」が現物をもってして分かり、高い歴史的価値がある。日本の城を知りたかったら、「高岡城」へ！

② 「連続馬出」の設計が当時最先端！

高岡城は本丸を取りまく6つ全ての郭が攻撃と防御を兼ね備えた「馬出」（守るべき郭の堀の外に造られた陣地）。城郭考古学者・千田嘉博先生も高く評価する「馬出」は、洋の東西、時代を問わず、馬出が現れたらその城は「究極の段階」（最適解）となる。それを6つも連続させる高岡城は名古屋城と並び、馬出を高度に用いた傑出した城。日本、及び人類史上普遍的な価値を有すると高く評価する。

またこの設計は、1583年に加賀松任城を改修して以来、前田利長が試行錯誤を重ね、1605年の富山城改修を経て、1609年の高岡城へとバージョンアップしてきたものである。

③ 富山県唯一の「日本百名城」！

日本百名城は2006年4月6日（城の日）に、(公財)日本城郭協会が選定。各県1～5城、観光地としての知名度、文化財や歴史上の重要性、復元の正確性などをもとに、千田嘉博先生ら専門家などの厳しい審査により選定された。選定委員長・新谷洋二先生は「城は地面に穴を掘って溝（堀）をつくり、掘り出した土を盛り上げて土手（土塁）を築いたもの。建物は不要であり、天守閣を城だと思っていた人は認識を改めて頂きたい」と語る。

④ 築城関連古文書が豊富！

高岡築城、及び城下町造成関連の前田利長書状などの古文書は約60点もあり、その経緯が詳細に分かり、極めて貴重な事例といえる。



⑤ 手厚い地盤造成工事

高岡城の発掘調査により、1609年の築城時に城域全てに手厚い地盤造成工事が行われたことが判明した。いったん全ての郭の土を縄文時代の地層が現われるまで掘り、広大な堀を掘って出た粘土質の土と「礫」（小石）と混ぜた強度と水はけのバランスが絶妙にとれた人工的な土を城域全てに、数10cmから、最大10m以上（本丸南隅）も積んで叩いて固めている。わずか半年以内という超突貫工事であった高岡築城の裏で、こんな大変なことをしていた！

⑥ 400年涸れたことの無い水堀

庄川の伏流水や雨水が水源とされる高岡城の水堀は、1996年に玄手川（千保川支流）から送水管を通して水を入れるまで、長らく水が涸れたことが無いといわれていた。水がきれいだったので“塵不溜”と呼ばれてきた「枅形堀」の博物館（鍛冶丸）と動物園（明丸）の間が湧水点といわれる。しかし、他2つの水堀に湧水点は未確認で、枅形堀から極めてわずかず他の水堀に浸透していたと考えられている。よって枅形堀の水位が最も高く、三の丸堀との水位差は約1m、内堀との差は約2mもあったとされる。

【オマケ】

公園制度開始2年後に公園となった日本有数の近代公園！

また、高岡城跡は1873年に初めて日本に公園制度が創設された「太政官布告第16号」の

⑦ 「高岡台地」のガケを利用

高岡城は広大な射水平野に浮島のようにある「高岡台地」（長さ約1.7km、幅約5～600m）の最高所である標高約15m前後の地に建つ。高岡台地は特に北から西にかけて、ガケ（崖）がハッキリしている（高低差約10数m）。そのうえ、広大な沼沢地（東側は水田）もあり、城の防御力を高めていた。

⑧ 3度の「破壊」の危機を回避！

高岡城は1615年の「一国一城令」（及び1638年の破城令）、明治初期の払下げ開墾令、高度経済成長～バブル期の「開発」も無く、3度の危機を回避してきた「奇跡の城」といえる。利長の遺志を継いだ利常、高岡町民・市民の努力の賜物であろう。



わずか2年の1875（明治8）年7月4日に公園に指定された、日本でも有数の「近代公園」である。そして、明治中～後期には、京都の庭師「植治」こと8代小川治兵衛（弟子の広瀬万次郎）、及び「祖庭」こと東京府・市の造園家・長岡安平という東西の二大巨頭というべき造園家の手が入っており、近代公園としても極めて価値が高い。